

令和4年度 次世代電池・半導体技術開発拠点推進協議会（第1回）

1. 日 時 令和4年11月24日（木）15：00～16：30
2. 場 所 兵庫県本庁舎第3号館6階第3委員会室
3. 出席者 委 員：荒木委員、石川委員、伊藤委員、緒方副座長、嶺重委員、
矢橋委員、吉高委員、渡邊座長（五十音順）
事務局：竹村産業労働部長、宮口産業労働部次長、能本科学振興官
（兵庫県）

4. 議 事

[協議事項] 半導体・蓄電池産業の振興に向けた方策等について

5. 議事概要（意見交換）

- 半導体や蓄電池分野において日本のシェアが低下してきているのは、市場確保の観点で十分な議論がなされてこなかった背景がある。日本における半導体分野について、将来的にどのような市場を描くのかを検討した上で、何を目指すかを考えるべき。
- 半導体や蓄電池分野において、何に取り組むかのターゲットをしっかりと議論することが非常に重要。市場規模の大きさだけでなく、将来的な動向を見定めることが必要であり、しっかりとターゲットを絞って議論していくべき。
- 需要側の観点から、新しい産業についても議論していくべき。新しい切り口で半導体や電池のエンドユーザーあるいは市場の開拓を含めた検討ができるのではないかな。
- 半導体・電池分野ともに、裾野が非常に広く、下請けから孫請けまで多様な企業が集まって成り立つ産業であり、県内中小企業にも十分に参入チャンスがある。県内中小企業でどのようなことを取り組まれているか把握することで、どういう取組の方向性があるかを議論できると期待。
- 半導体と電池分野は、いずれも日本が先行していたにも関わらず、普及拡大していく中で、徐々に地位を失ってきた分野。この二の舞にならない、今度は大丈夫だということを、何をもって担保するのが課題。
- 半導体や蓄電池分野の周辺技術の蓄積と技術者の育成といった地道な取組と先端分野への取組、両面によるアプローチが必要。

- 人材の確保について、半導体や蓄電池産業の魅力が下がっていることが一つ課題となっている。それぞれの産業界の魅力を発信していくような取組が必要である。
- 動作中の電池や半導体のオペランド測定が非常に重要になっている。SPring-8は、透過力の高い硬 X 線により、非破壊でナノスケールの観察が可能。多くの方に活用いただけるように、プラットフォームとして整備を進めていく。
- 半導体や蓄電池産業のコアとなる構成要素を整理した産業構造マップを作成してはどうか。施策を検討する上でどこをターゲットとするかという議論に活用できるほか、企業においてはどのようなところに参入ができるかイメージしやすくなる。
- 産業構造マップの作成については、企業の NDA（秘密保持契約）等に抵触しないように、公開する内容は慎重な議論が必要だが、非常によい取り組み。内容が粗いものでも、公開することでガイドラインとしての意義がある。
- 国内の半導体産業の立地について、各都道府県でのアドバンテージは何かについて調べておくべき。ほか、中小企業の参入メリットの有無は必要な情報。
- 半導体・電池分野に興味関心を持っていただくことを目的として、県内の現状や取組のほか、国の動向などを情報提供するシンポジウムの開催を企画（県委託）。令和 5 年 3 月上旬に開催を予定しており、広報に際しては皆様にも協力願いたい。
- セミナーは、企業の関心を引けるように夢がある情報とともに、県内にこれだけのポテンシャルがあるということを書いてもらえれば企業の参加意欲が高まる。

以 上